「日本人の条件」はどのようにイメージされているか

――インターネット調査の結果より――

大阪経済大学　　石田　淳

1　目的

日本のナショナル・アイデンティティに関する研究は，これまで少なくない関心を持って続けられてきた．歴史的・制度論的な研究のほかに，市井の人びとの意識をISSPデータなどを用いて計量的に分析する研究がなされてきた．こうした研究で用いられるのは，ナショナル・アイデンティティに関わるいくつかの次元の重視度であり，因子分析によって潜在的な次元を抽出するというのが一般的な研究戦略であった．しかし，重視度の因子分析だけでは，人びとのイメージにある複雑な「日本人の条件」は十分に捉えきれない．そこで本研究では，石田（2007）において提案された「ブール代数分析法を用いた社会的カテゴリー分析」の手法と調査枠組みを用いて，人びとのもつ「日本人の条件」イメージと社会的属性との関連を分析する．

2　方法

2013 年 10 月にインターネット調査を実施した（科研費 23653141）．20～79 歳のモニターを対象に，2010 年度国勢調査の年代（5 歳刻み）×性別人口構成比と整合するように 2000 名のサンプルを割当法で抽出した．

ブール代数分析による「日本人の条件」イメージの抽出のための主要な質問項目として，日本人の条件となりうる 2 値の 4 種類の条件を組み合わせた架空のプロフィールを提示し，それぞれ日本人だと思うか否かを判断させるヴィネット形式の質問を用いた．具体的な条件は次の通りである．N：日本国籍を【もっている／もっていない】　R：日本に在住【している／していない】　B：両親が日本人で【ある／ない】　L：日本語を【流ちょうに話すことができる／話すことができない】　これら 4 条件の組合せによって 16 パターンのプロフィールを得る．プロフィールの提示順序は回答者ごとにランダム化して提示した．16 パターンそれぞれに対して、日本人だと思うか否かの 2 値評価とともに，その評価に対して「4 確信がある」から「1 ほとんど確信はない」までの 4 段階の確信度を尋ねた．その他，関連するナショナル・アイデンティティ尺度、属性・社会経済的地位項目を尋ねた．

3　結果と結論

それぞれの条件組み合わせに対して，日本人と判断した回答者の割合より，回答者全体のイメージを統合した真理表を構成し，社会的に共有される「日本人の条件」イメージを析出した．さらにそれぞれの回答者の回答パターンから，それぞれの回答者がもつ「日本人の条件」イメージを析出した．個人イメージとしては，多様な形態のイメージが出現するが，特に必要条件もしくは十分条件としての出現頻度が高かったのが，国籍（N）と血統（B）の 2 つの条件であった．そこで，国籍・血統を必要条件もしくは十分条件とするイメージを持つ属性条件を探るために，それぞれロジット分析を行った．その結果，国籍を必要条件もしくは十分条件とするイメージについては，女性に比べて男性が，また教育レベルが高い方が，さらに地域外国人認知が高い方が国籍を主体とするイメージを持ちやすいことが分かった．逆に，血統を必要条件もしくは十分条件とするイメージについては，20 歳代よりも年代が高い方が，また地域外国人認知が低い方が血統を主体とするイメージを持ちやすいことが分かった．このように，人びとの属性や社会的地位によって，保持される日本人イメージが異なることが分かった．

さらなる分析結果とそこから引き出される結論については，当日の発表で詳説する．

文献

石田淳，2007，「ブール代数分析による社会的カテゴリーの研究――『日本人』カテゴリー認識の分析」『ソシオロジ』52(1): 3-19.